

2022年度後期		知の市場(シラバス)						新規				
科目No.	関連講座GR512b	科目名	比較イノベーション論事例研究(2)				副題	高度成長期イノベーションとITイノベーションの原理を比較検証してイノベーションの活性化を探る				
連携機関名	社会技術革新学会	水準	中級	教室定員	0	配信定員	30	講義日時	第2水曜日19:00～21:00	拠点 (開講機関)	リモート・品川東 (知の市場)	
科目概要(300字)	日本企業は1990年代前半を頂点としてイノベーションから大きく後退した。中でもITイノベーションでは米国の独走を許し、その遅れはデジタル化の遅れとして顕在化している。デジタル庁ができた現状から早急に官民でコンセンサスを形成して復活を目指す必要がある。前期は日本の高度成長期のイノベーション原理について考察する。後期はITイノベーションでなぜ日米間に大きな格差が生じたのかを具体的に検証する。この比較検証によりイノベーション原理も大きく変貌して来たことを検証することにより、日本におけるイノベーションの活性化の方策を探る。											
科目構成	No.	講義	講義概要(150字以内)					講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
日米のITイノベーション	1	ITイノベーション概論	1990年代後半に米国はITイノベーションを実行し、1990年代後半にGDP成長を復活させ、現在に至るまで世界のITイノベーションをリードしている。その基本的な考え方を概観する。					2022/10/12	Zoomを活用してリモート開催。	山口 真人	山口 真人	社会技術革新学会 会員
	2	I T イ ノ ベーションと生産性向上	米国と日本の第1次及び第2次のITイノベーションに基づく生産性向上について検証する。同時に生産性測定のための基本的な考え方について説明する。					2022/11/9				
	3	第1次ITイノベーション	1980年代に、米国は技術戦略を見直し第1次ITイノベーションを実行し米国IT産業を復活させた。さらに米国産業界はITイノベーションを活用し競争優位になったのに対し、日本産業界はIT化に大幅に遅れたことを検証する。					2022/12/14				
	4	第2次ITイノベーション	第2次ITイノベーションではインターネットを中心に経済活動が広く行われるようになった。米国政府やグーグルがITイノベーションをどのように深化させ、世界的覇権を握るに至ったかを検証する。					2023/1/18				
	5	AIの未来	21世紀に入りAI技術はディープラーニングによって、驚異的に自己学習が進み、特定領域では人間を凌駕しつつある。第2次AIブームを振り返ると共に、これから発展が期待できるAI領域を取りあげる。					2023/2/8				
	6	日本は如何に取り組むべきか	日本のITイノベーションを復活させるためにデジタル化を進めることが緊要であり、日本が必要とするデジタル化原則と原理とその達成指標(KPI)についてについて検証する。					2023/3/8				